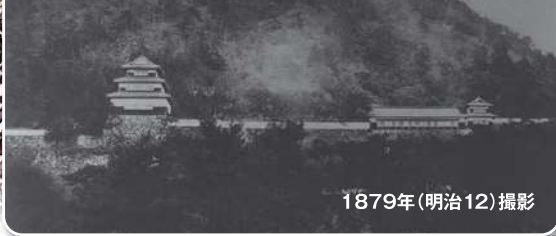


鳥取城を歩く—山下ノ丸編—

世界文化遺産・姫路城の“弟城” 江戸時代の鳥取城二ノ丸の姿



1879年(明治12)撮影

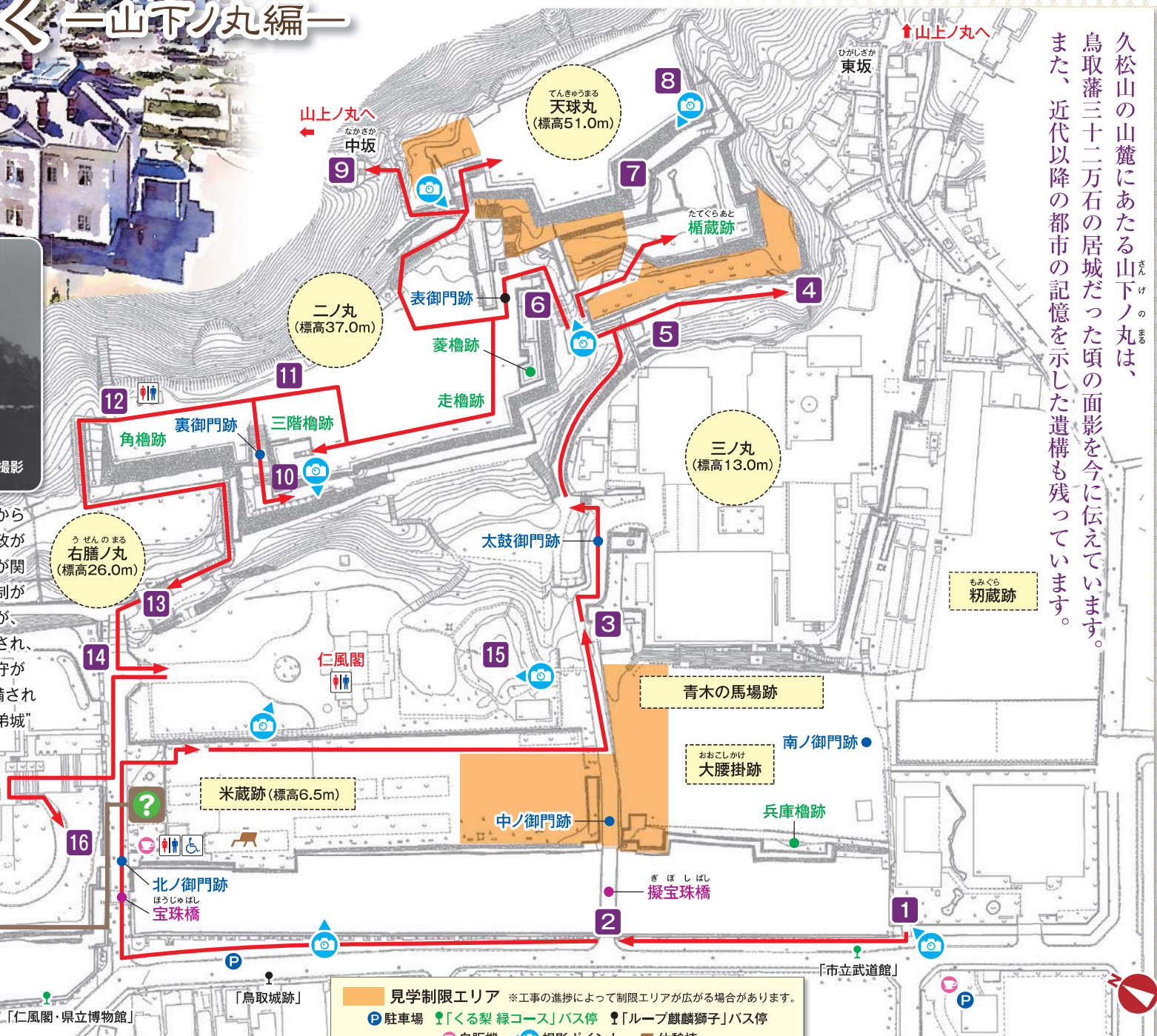
山下ノ丸の中心であった二ノ丸の建物は、姫路城から移った池田光政の頃の創建と考えられ、祖父池田輝政が姫路城大天守(兵庫県姫路市)を築いた際の職人達関わったと想定されます。この頃、幕府による築城規制があったため、鳥取城内には、高層の櫓はありませんが、二ノ丸三階櫓は、山陰地方で初めての層塔型の櫓とされ、山頂の天守焼失後の象徴でした。また、姫路城大天守が築かれてから約10年後、同じ職人達によって再整備された鳥取城二ノ丸の姿は、世界文化遺産・姫路城の“弟城”とも言えるものでした。

鳥取県立博物館



? ガイド詰め所「きなんせえ家(や)」

【ガイドエリア】鳥取城跡・仁風閣
 【日 時】4月上旬から11月下旬、10:00~15:00
 ※ただし8月中は休み
 【実施日】土・日・祝祭日
 【申し込み】
 無料コース/ガイド詰め所「きなんせえ家(や)」現地受付
 有料コース/予約・問合せはとっとり観光ガイド友の会
 事務局 電話0857-26-0756



久松山の山麓にあたる山下ノ丸は、鳥取藩三十二万石の居城だった頃の面影を今に伝えていますが、また、近代以降の都市の記憶を示した遺構も残っています。

見学制限エリア ※工事の進捗によって制限エリアが広がる場合があります。

駐車場 「くる梨 緑コース」バス停 「ルーベ麒麟獅子」バス停
 自販機 撮影ポイント 休憩棟